

# 学校再編推進計画・素案作成に「待った」

## 市議会民文委

6月議会最終日24日、民生文教常任委員会は「小中学校再編推進計画」について、本年7月に素案の策定を予定しているが、社会情勢の変化や直近の人口推計の十分な精査が行われておらず、また小中学校施設長寿命化計画など他の計画との兼ね合いを考慮すると時期尚早」と断じ、「今後、市議会の提言をしっかりと勘案すること」と報告しました。市当局の今後の対応が市民から注視されます。

小中学校統廃合審議会の答申(2019年12月)は、①東部小学校を石動小学校に統合する、②津沢小学校と蟹谷小学校を統合する、③津沢中学校と蟹谷中学校を統合するというものでした。これを受けて市は、どここの学校を、いつまでに統廃合するかの学校再編推進計画を年内に作成するために、その素案を7月までにまとめ、保護者や地域住民への説明会、パブリックコメント募集をする予定を市議会に報告しました。市議会がこれに「待った」をかけた形です。

## 学校統廃合地域づくりに水を差す 砂田市議の主張

「答申」はコロナ禍の前に出され、分散登校、少人数学習を経験し、不登校児童生徒数が減少するなど少人数学級の素晴らしさを体験する前につくられたものである。また、国が少人数学級に一步踏み出す前に出されたものだから、この「答申」を絶対視することはできない。

合併前の旧村にあった小学校の統廃合は既に実施済みである。東部小学校の規模は最適な学校規模であり、1学年2学級が望ましいとの「答申」や文部科学省の主張には教育的な根拠がない。


国が小中学校の統廃合を推進しようとしている狙いは教育予算の削減、教員数の削減にある。小学校のなくなる地区に若者が住もうと考えなくなるのでは、それらの地域での町づくりをすすめる住民の努力に水を差すことになる。

**明るい小矢部**

No.210  
2021年7・8月号  
年4回6500部発行

発行  
日本共産党  
小矢部市委員会  
小矢部市七社 245  
砂田喜昭  
TEL 67-4322  
FAX 67-4842

日本共産党発行  
**赤旗**  
定価 349円  
送料別 930円



## 6月議会 一般質問

### 学校統廃合よりも

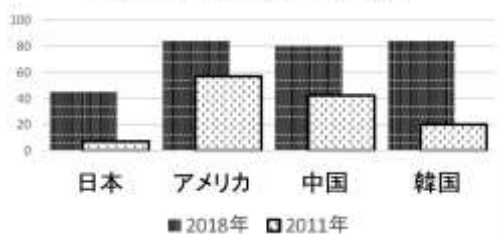
### 教員・講師の増員拡充を

砂田市議の一般質問は上のQRコードから見られます。

【砂田市議】日本では高校生の自己肯定感は、44・9%で、米・中・韓の約半分だ(グラフ参照)。学校で他人と比べる切磋琢磨でなく、それぞれの良いところを見つけ育むことが大切だ。

そのためには教師集団が一人一人の特徴がわかる少人数学級、小規模校が必要である。1学年2学級をめざす学校統廃合は少人数学級に逆行する。

私は価値ある人間と思う



国立青少年教育振興機構2018年高校生の心と体の健康に関する意識調査報告と2011年日本青少年研究所の同報告

## 多人数学級支援講師の存続を

【砂田市議】わずか百万円余りを節約するために、市が県下で先進的に取り組んできた多人数学級支援講師の廃止をすべきではない。

【桜井市長】校長会からも拡充の重点要望を受けているが、財源の問題で、スタディメイトに担ってもらいたい。

【砂田市議】国が最終的に30人

学級にするまでは、多人数学級支援講師は必要だ。スタディメイトに、それに匹敵する仕事をしてもらうには、勤務条件の拡充がぜひとも必要だ。

【市教委事務局長】今後の予算編成の中で、「できること、できないこと」を整理して対応したい。

### 参考

### 多人数学級支援講師とスタディメイトの仕事と勤務条件

多人数学級支援講師は31人以上の学級に補助の教師として配置し、県下で小矢部市独自の制度。今年度は蟹谷小学校に一人配置し、予算164万7千円。勤務時間一日5時間で週5日。

スタディメイトは発達障害などにより通常級において支援が

必要な児童の対応や身体的な障害のある児童などの日常生活の介助等を主な役割。県下では各校一人配置が多いが、小矢部市は5校で24名配置(内教員免許者19名)。予算は2072万円(一人平均86万3千円)。勤務時間は平均週19・5時間で、各校の事情による。

### ひろば

砺波演劇鑑賞会が例会毎に19年間余、会員を増やし続けている。辞めた会員を上回る新しい会員を増やし、全国でも希少な存在とかな。コロナ禍で延期された舞台の一つがSing a Song。戦前、派手なドレスに身をまとい、敵性音楽として官憲から厳禁されていたブルースを歌い続けた歌手が、前線の軍慰問でも軍歌は絶対に歌わず、兵士たちの故郷を思う気持ちを慰めていた。淡谷のり子がモデルのように。時の流れに棹さして、自らの信念を貫く、キツパリと、しかもしなやかに。話は変わるが、7月にアフリカのセーシェル共和国が55番目に核兵器禁止条約に参加、核廃絶が世界の流れである。一発の原爆で広島、長崎という大都市が破壊され、数十万人の生活と命が一瞬にして奪われた。こんな非人道的な兵器は人類と共存できない。ところがアメリカなど核大国は「核兵器、俺は持つ、おまえは持つな」。こんな無理筋の理屈に世界中の人々や国々が声を上げ始め、国連で採択されたのが核兵器禁止条約である。だが戦争被爆国日本政府はこれに背を向けている。「核兵器禁止条約に日本政府も参加を」、この声が1021名の署名となって小矢部市議会に請願されたが、議会は否決。反対した議員たちは全世界の時の流れを読めないのか。それとも時の政府のやることに棹させないのか。淡谷のり子ならどうしただろうか。一つの舞台が私たちの生き方を考えさせてくれる。こんな鑑賞舞台を続けるのに、仲間を増やしつづける粘り強い努力があった。ここに学んで核兵器のない時代を開こう、さあ世直しだ。